

高倉太郎氏作成 『カクラ・テル年譜 略歴』と 山野晴雄作成 『カクラ・テル 高倉輝』年譜』2013年2月14日作成との比較一覧

	年	高倉太郎氏年譜	山野晴雄年譜	備考
1	1891	4月14日、高知県高岡郡口神川に生まれる。父は輝房、母は美弥。ついで秋丸へ、ついで幡多郡七郷村浮鞭に定住。(戸籍では幡多郡七郷村大字浮鞭三三番屋敷に出生とある。)	4月14日、高知県高岡郡口神川に生まれる。本名高倉輝豊。父は輝房、母は美弥。次いで同郡秋丸、のち幡多郡七郷(現・黒潮町)村浮鞭に定住。(戸籍では幡多郡七郷村大字浮鞭三三番屋敷に出生とある)	
2	1897	南郷尋常小学校に入学(当時の修業年限は4年)。	村の助役を勤めたことのある父がテルの年齢を普通より1年早くごまかして南郷尋常小学校に入学させる(当時の修業年限は4年)。	
3	1901	入野高等小学校に入学(当時の修業年限は4年)。	入野高等小学校に入学(当時の修業年限は2年または4年)。	
4	1903	入野高等高等小学校2年終了。愛媛県宇和島中学校を受験して合格。宇和島の叔父(美弥の弟)、眼科医尾崎通信の書生となって通学。	入野高等高等小学校2年終了。愛媛県宇和島中学校を受験して合格。宇和島の叔父(美弥の弟)、眼科医の尾崎通信の書生となって通学。一高生・藤村操の自殺にショックを受け、人生を考えるには哲学の学習が必要と痛感。	
5	1908	なし	宇和島中学5年卒業。医者になって金儲けをしると主張する叔父と意見が合わず、1年間上級の学校をどこも受けず、家の手伝いをする。	
6	1909	宇和島中学校5年卒業。親族の勧める岡山医専を受けると見せかけて、京都第三高等学校を受験して合格。9月、三高へ入学(一部乙類)。	親族の勧める岡山医専を受けると見せかけて、京都の第三高等学校を受験して合格。9月11日、三高へ入学(一部乙類)。平田禿木に英語、厨川白村に英文学を教わる。	
7	1910	なし	人生問題を解決するには哲学を勉強しなければならない、とドイツ語を必死で学習する。	
8	1911	なし	5月、『新小説』懸賞論文2等入選。「日本の国民性と其の文学」。4	
9	1912	5月、第三高等学校三年卒。京都帝国大学文学部英文科へ入学。主任教授上田敏。言語学を新村出、ロシア語・ロシア文学を山口茂一(ロシア人と日本人の混血児)に学ぶ。	7月6日、第三高等学校卒業。9月、京都帝国大学文学部英文科入学。主任教授上田敏。言語学を新村出、ロシア語・ロシア文学を山口茂一に学ぶ。	

10	1915	卒業予定のところ、イギリス人教師とシェイクスピアについて論争し、こんな不勉強な教師は相手にならないと愛想をつかし、授業をボイコットし、卒論も出さなかったため、1年留学。	卒業予定のところ、イギリス人教師と対立し、英語（シェイクスピア）の講義をボイコットし、卒業論文も出さなかったため、1年留学。 ロシア語教室で哲学科に入学した土田杏村と知り合う。
11	1916	7月、京都帝国大学を卒業。（卒業論文は「グレゴリー夫人の作物」）イギリス人教師にはレポートだけ出したら、卒業にしてくれた。 新村出教授のもとで、ただちに同大学の法科・国際司法研究室（主任・跡部定次郎）の嘱託となり、あしかけ6年間勤める。	5月、詩人バリモン트가来日、山口茂一にかわってタカクラが接待する。 7月13日、京都帝国大学卒業。（卒業論文「グレゴリー夫人の作物」） 新村出教授のもとで、京都帝国大学法科・国際司法研究室（主任・跡部定次郎）の嘱託となる。 （月給30円） 西田幾多郎・波多野精一などの講義に出て、哲学から三木清と知り合いになる。 12月、「上方舞踊の危機」（『邦楽』創刊号）を発表。
12	1917	なし	3月～4月、「プーシキン評伝」（『芸文』）を発表。
13	1918	なし	2月～4月、「バリモント詩抄」（『芸文』）を発表。
14	1919	10月1日、戯曲「砂丘」を雑誌「改造」に発表。初めて文壇に認められる。	9月28日、ア・デ・ルードネフ著、山口茂一訳『蒙古文典』の翻訳に助力する。 10月1日、戯曲「砂丘」（『改造』）を発表（厨川白村が推薦の言葉を書いている）、初めて文壇に認められる。
15	1920	1月、戯曲「焰まつり」を雑誌「我等」に発表。 12月、戯曲「孔雀城」を雑誌「改造」に発表。	1月、戯曲「焰まつり」（『我等』）を発表。 6月、「山口先生と自分」（『芸文』）を発表。 12月、戯曲「孔雀城」（『改造』）を発表。
16	1921	5月10日、ロシア戯曲「心の劇場」を翻訳し、最初の単行本として、京都内外出版社から発行。 指導教官・新村出教授の海外出張ちゅうに京都帝国大学の嘱託をやめ、作家として独立。 9月、戯曲「切支丹ころび」を「改造」に発表。 このころから、哲学者・土田杏村をつうじて、「信濃自由大学」との関係が生まれる。 9月17日、父輝房、脚気のため、鶴来島で急死（63歳）。 急いで帰郷し、故郷にいるあいだにロシア語の教師、山口茂一をモデルにした長編小説「蒼空」を書く。 このころから、芥川龍之介・菊地寛・久米正雄らによる文壇のボイコットが始まる。	5月10日、ロシア戯曲訳『心の劇場』（内外出版社）を出版。 6月、土田杏村から自由大学の相談を受ける。 指導教官・新村出の海外出張中に京都帝国五大学の嘱託をやめ、作家として独立。 9月、戯曲「切支丹ころび」（『改造』）を発表。 9月17日、父輝房、脚気のため、鶴来島で急死（63歳）。 帰郷し、故郷にいる間にロシア語の教師、山口茂一をモデルにした長編小説「蒼空」を書き始める。 このころから文壇の第3次「新思潮」の芥川龍之介・菊地寛・久米正雄らによる文壇からのボイコットが始まる。

			12月1日～6日、信濃自由大学「文学論」(上田市横町神職合議所、68名)。
17	1922	1月15日、戯曲「焰まつり」・「孔雀城」・「切支丹ころび」をまとめて「三部曲 女人焚殺」の題名でアルスから出版。 12月、上田市の「自由大学」で「文学論」を講義。 12月25日、京都で安田津宇と結婚。 長野県杓掛星野温泉におちつく。のち軽井沢千ヶ滝へ移る。	1月15日、戯曲集『女人焚殺』(アルス)を出版。 9月ころ、安田津宇と婚約。 12月5日～9日、信濃自由大学「文学論」(県蚕業取締所上田支所、63名)。 12月25日、安田津宇と結婚、長野県星野温泉におちつく。のち軽井沢千ヶ滝へ移る。
18	1923	2月、文壇のボイコットによって、大坂のプラトン社から「蒼空」の雑誌掲載を破約してくる。以後の作品は、友人北原白秋の弟、北原鉄雄氏が社長をしていたアルスから単行本として出版。 4月10日、戯曲集「海峡の秋」、6月1日、長編小説「蒼空」、7月28日、感想集「我等いかに生く可きか」をアルスから出版。 9月27日、長女信が生まれる。 10月、長野県別所温泉の常楽寺のはなれへ移住。	1月、東北文化学院「文学論」。 2月、文壇のボイコットによって、プラトン社から「蒼空」の掲載を破約してくる。以後、北原白秋の弟・北原鉄雄が社長をしていたアルスから単行本として出版。 4月10日、戯曲集『海峡の秋』(アルス)を出版。 6月1日、長編小説『蒼空』(アルス)を出版。 6月30日、安田津宇との婚姻届出。 7月28日、評論集『我等いかに生く可きか』(アルス)を出版。 8月6日～8日、魚沼自由大学「近代思潮論」(堀之内小学校、約150名)。 8月6日、婦人のための講演「恋愛と家庭」。 8月11日～13日、岩船夏期大学で講演。 9月27日、長女信(のぶ)生まれる。 10月、長野県別所温泉常楽寺のはなれへ移住する。 10月末、信南自由大学設立につき横田憲治が訪ねてくる。 12月1日～5日、信濃自由大学「文学論」(県蚕業取締所上田支所)。 12月16日、八海自由大学発会式「発会式に臨みて」(伊米ヶ崎小学校)、講演「文学概論」。
19	1924	6月15日、短編集「かうして嬰兒がこの世へ生まれた」、9月18日、戯曲「長谷川一家」をアルスから出版。	1月28日～2月1日、信南自由大学「文学論」(飯田町江戸町正永寺、52名)。 2月1日、伊賀良村青年会で講演「イワンの馬鹿」。 6月15日、短編集『かうして嬰兒がこの世へ生まれた』(アルス)を出版。 8月10日、「自由大学に就て」(伊那自由大学パンフレット『自由大学とは何か』)を執筆。 8月15日、自由大学協会準備会を高倉輝宅で開く。 8月18日～22日、魚沼自由大学「文学論(ダンテ)」(堀之内小学校、約100名)。 9月18日、戯曲『長谷川一家』(アルス)を出版。

			12月10日～15日、上田自由大学「文学論」(上田市役所)。 12月16日、松本自由大学発会式に出席(松本公会堂、約200名)、講演「二つの世界」。(猪坂直一も同行)。	
20	1925	土佐の母を迎えに行く。 9月29日、長男太郎が生まれる。	1月8日～12日、伊那自由大学「文学論(ダンテ研究)」(飯田町天竜倶楽部、26名)。 1月8日、伊那自由大学公開講演「所感」(百十七銀行楼上)、(猪坂直一も同行)。 1月10日、「露西亜文学研究(プーシキン)」を『自由大学雑誌』に連載。 3月15日～17日、下伊那地方(千代、市田)へ講演。 6月6日、長編小説『阪』上巻(アルス)を出版。 土佐にいる母美弥を迎えに行く。 9月20日、自由大学協会幹事会(別所温泉花屋ホテル)に出席。 9月27日*、長男太郎生まれる。 12月1日～4日、上田自由大学「文学論」(上田市役所、30名)。	*9月29日の誤り。 2015年11月17日改訂の「タカクラ・テル年譜」でも見落とし、訂正されていない。
21	1926	4月8日、長編小説「阪」、11月4日、思想「生命律とは何ぞや」をアルスから出版。	1月10日、群馬自由大学発会式に出席(前橋臨江閣、150余名)、講演「文学の成立に就て」。(猪坂直一も同行) 2月3日～6日、伊那自由大学「ダンテ研究(続講)」(飯田小学校、15名)。 2月23日～26日、群馬自由大学「文学論」(前橋男子師範学校)。 4月8日、長編小説『阪』下巻(アルス)を出版。 4月25日～27日、川口自由大学「文学論」(西川口小学校)。 11月4日、評論集『生命律とは何ぞや』(アルス)を出版。	
23	1927	この年、別所温泉柏屋別荘主人斎藤房雄氏の好意で、本人設計の家を建て、別所温泉を永住の地と定める。 6月18日～12月31日、長編小説「高瀬川」を「都新聞」に連載。 12月10日、アルス「日本児童文庫」の「世界童話集」(上)ロシア童話篇を担当出版。	この年、別所温泉柏屋別荘主人斎藤房雄氏の好意で、本人設計の家を建て、別所温泉を永住の地と定める。 1月7日～15日、「大原幽学のこと 思温荘雑話」を『信濃毎日新聞』に連載。 6月18日～12月31日、長篇「高瀬川」を『都新聞』に連載。 10月9日、川口自由大学「文学論」(西川口小学校、約70名)。 12月10日、『世界童話集(上)』(日本児童文庫18、アルス)を出版。	

			12月20日、許可により輝豊を輝に改名。	
24	1928	2月9日、次女房が生まれる。 2月、第16回総選挙（最初の男子普通選挙）に農民組合から立候補を勧められたが辞退。	2月9日、次女房（ふさ）生まれる。 2月、上田自由大学の再建に協力する。 2月、第16回衆議院総選挙（最初の男子普通選挙）に農民組合から立候補を勧められたが辞退する。 3月14日～16日、上田自由大学「日本文学研究」（上田図書館、60名）。 4月14日、上小農民組合連合会結成式に出席（上田市公会堂）、講演「耕す者は永遠である」。 5月21日、青木村農民組合結成式（修那羅山）で記念講演。 6月18日～21日、「インテリゲンチャとは何か」を『都新聞』に連載。 12月1日～4日、伊那自由大学「日本民族史」。	
25	1929	3月1日、妻のいとこ、労農党代議士山本宣治、上田小県農民組合連合会第2回大会で講演。 3月5日、山元宣治、東京の宿舎・光栄館で殺される。 3月6日、山宣死去の報を受け、急ぎ上京。 3月8日の告別式（東京本郷仏教青年会館）に参列。 10月5日、アルス「日本児童文庫」の「印度童話集」を担当出版。	1月10日、『チーホフ集』（近代劇全集28、第一書房）を出版。 2月28日、妻津宇の従兄山本宣治、別所温泉の高倉輝宅を訪れ、津宇と8年ぶりの再会。 3月1日、上小農民組合第2回大会に出席（上田市公会堂）、講演「農民運動の意義」、山本宣治「無産政党政代議士の議会観」。 3月5日、山本宣治、暗殺される。 3月5日、「耕す者は永遠である」（『伊那自由大学』第1号）を発表。 3月6日、山本宣治死去の報をうけ上京。 3月8日、山本宣治の告別式（東京本郷仏教青年会館）に参列。 3月14日、上田自由大学での講義を延期。 3月15日、上小農民組合連合会「山本代議士追悼大演説会」（上田市公会堂）で「山本の一生及び凶刃に倒れたる最期より葬儀に列せる事実の報告」を報告。 4月2日、和農村研究会の創立記念講演会（和小学校講堂）で講演。 5月15日、『山本宣治全集』全8巻（安田徳太郎・高倉輝編集、ロゴス書院）を刊行。 秋、別所温泉のために、長唄「風流七苦離乃里」を作詞。 10月5日、『印度童話集』（日本児童文庫14、アルス）を出版。 12月6日～9日、上田自由大学「日本文学研究」（海野町公会堂、28名）。 12月20日～22日、伊那自由大学「日本民族史研究」。	
25	1930	1月28日、「農民運動のラッパ吹き拝命」を「上田毎	1月28日、「農民運動のラッパ吹き拝命」（『上田毎日	

		<p>日新聞」に発表。</p> <p>5月1日、山本宣治記念碑除幕式が高倉輝宅の庭先で行われる。</p> <p>7月2日～9月5日、小説「百姓の唄」を「都新聞」に連載。</p> <p>9月9日、次男次郎が生まれる。</p> <p>西塩田村の小作争議始まる。</p> <p>11月20日、小説「高瀬川」を単行本としてロゴス書院から出版。</p>	<p>新聞』を発表。</p> <p>1月31日、東信無産派選挙対策委員会結成式（上田市公会堂）で執行委員長に選出される。</p> <p>5月1日、山本宣治記念碑除幕式が担倉輝宅の庭先で行われる。</p> <p>7月2日～9月5日、「百姓の唄」を『都新聞』に連載。</p> <p>9月9日、次男次郎が生まれる。</p> <p>11月2日、全国農民組合西塩田支部結成式（西塩田村新町劇場）で演説。</p> <p>西塩田村小作争議始まる。</p> <p>11月20日、『高瀬川』（ロゴス書院）を出版。</p>	
27	1931	<p>2月12日、全農上小地区委員会大会開催について、高倉宅で打ち合わせ会を開く。</p> <p>5月1日、次男次郎が發育不全のため死亡。</p> <p>10月30日、三女友が生まれる。</p>	<p>2月12日、全農上小地区委員会第1回大会開催について高倉輝宅で打合会を開く。</p> <p>5月1日、次男次郎、發育不全のため死亡。</p> <p>8月、伊東三郎の紹介で守屋典郎が訪ねてくる。3か月間常楽寺のはなれに住む。</p> <p>10月30日、三女友（とも）生まれる。</p> <p>11月11日、日ソ文化協会（旧ソヴェート友の会）主催のソ連北極探検隊歓迎会に出席。</p>	
28	1932	<p>全農別所支部の女工委員会の組織に関係する。</p> <p>2月25日、三女友が肺炎で死亡。</p> <p>3月25日、西塩田村の小作争議、農民組合側の勝利で解決。</p> <p>8月6日～11月16日、長編小説「狼」を「都新聞」に連載（検閲よって中断される）。</p>	<p>1月5日、全農上小地区委員会主催「西塩田村小作争議批判演説会」（西塩田村新町劇場）、高倉輝「寺と質屋」、布施辰治「西塩田村小作争議の展望」。</p> <p>1月17日、全農別所支部、女工委員会を結成。この女工委員会の組織化に関係する。</p> <p>1月、共産党拡大のため守屋典郎が真栄田（松本）三益とともに訪ねてくる。</p> <p>2月25日、三女友、肺炎で死亡。</p> <p>3月25日、西塩田村小作争議、調停交渉が行われ、農民組合側の勝利で解決。</p> <p>3月、高倉輝を慕って関口竜夫一家が常楽寺の別荘に6か月間移り住む。</p> <p>4月16日～19日、「亡児を悲む記」を『都新聞』に連載。</p> <p>8月6日～11月16日、長編「狼」を『都新聞』に連載。（検閲よって中断される）</p> <p>11月13日、布施辰治宅での晚餐会に参加、山崎今朝弥・安田徳太郎・秋田雨雀ら。</p>	
29	1933		<p>1月13日、上田市の全農上小地区事務所で15日のカール・ローザ記念日計画打ち合わせ、各情勢報告等の会合中に検束される。</p>	

		<p>2月3日、三男三郎生まれる。 長野県の教員赤化事件2月4日から大検挙が始まり(2・4事件)、2月23日、農民組合員とともに上田署に検挙される。6か月間面会なし。 9月15日、新聞記事解禁と同時に長野署にまわされ、初めて妻との面会を許され、その日のうちに長野刑務所に入る。 家族は長野県外へ追放となり、東京市滝野川区滝野川町1841へ移る。</p>	<p>2月3日、三男三郎生まれる。 2月23日、「2・4事件」で農民組合員とともに上田署に検挙される。6か月間面会なし。 9月15日、新聞記事解禁と同時に、長野署にまわされ、はじめて妻津宇との面会を許され、その日のうちに長野刑務所に入る。 10月、家族は長野県外へ追放となり、東京市滝野川区滝野川町1841へ移る。</p>	
30	1934	<p>7月30日、長野刑務所から保釈で東京の家へ帰る。 東京地方裁判所で実刑2年の判決を受け、ただちに控訴、執行猶予3年の刑がくだる。</p>	<p>同じ 東京地裁で懲役2年の判決を受け、ただちに控訴、執行猶予3年の判決が下る。</p>	
31	1935	<p>国語国字問題・漢字制限の問題を研究するかたわら、国語協会・カナモジカイ・日本ローマ字会の会員となる。 随筆「味噌」「糞の話」などを発表し、この年初めて筆名を輝からテルに変える。</p>	<p>1月14日、「高倉君の夕」が山水楼で開かれ、秋田雨雀・安田徳太郎・岡田道一二・三木清・藤森成吉・河崎なつ・田村栄・上泉秀信・北原鉄雄・徳永直ら約20人が集まる。 このころ高橋貞樹の執行停止運動、義援金募集運動を行う。 2月18日～20日、「味噌」を『都新聞』に連載。 7月1日、「糞の話」(『文学評論』)を発表。 9月1日、「文学当面の問題」(『文学評論』)を発表。はじめて筆名を輝からテルに変える。 9月23日～27日、「秋風たつ」を『都新聞』に連載。 11月1日、「農民文学の意義、任務」(『文学評論』)を発表。 11月4日、高橋貞樹の告別式に参列する。 12月1日、「国語国字問題の意義」(『唯物論研究』)を発表。 このころまでに国語国字・漢字制限の問題を研究するかたわら、国語協会・カナモジ会・日本ローマ字会の会員となる。</p>	
32	1936	<p>前年、のちのゾルゲ事件の関係者、宮城与徳と会う。 4月、長女信が平塚女学校へ入学するため、神奈川県中郡国府村生沢へ移る。 5月1日、雑誌「教育」に「綴方教育の根本問題」を発表。 8月、神奈川県中郡大磯町東小磯316へ移る。</p>	<p>1月、築地小劇場後援会機関誌『観客』の編集に参加。 1月19日～21日、社会時評「史的角度から」を『都新聞』に連載。 このころ真栄田つるの紹介で宮城与徳が訪ねてくる*。 2月、2・26事件のさい、太田典礼と赤坂見附付近を歩き、情報を収集する。 4月、長女信が平塚女学校へ入学するため、神奈川県中郡国府村生沢87へ移る。 5月1日、「綴方教育の根本問題」(『教育』)を発表。 6月13日～16日、「農村に移り住んで」を『都新聞』に連載。</p>	<p>*この項目は誤り。 宮城与徳を紹介したのは1935年に真栄田三益から。2015年11月17日改訂の「タカクラ・テル年譜」では1935年に「この年、のちのゾ</p>

	8月～9月、雑誌「思想」に「日本国民文学の確立」を 発表。 建設社から「尊徳読本」・「芭蕉読本」執筆。 この年初めてタカクラ・テルの筆名を使う。	8月、神奈川県中郡大磯町東小磯316へ移る 8月～9月、「日本国民文学の確立」(『思想』)を 発表。 12月20日、『尊徳読本』(人生読本第2巻、建設社)を 出版。 12月25日、『芭蕉読本』(人生読本第1巻、建設社)を 出版。 12月30日、『綴方教育の根本問題』(東京帝国大学学 生ローマ字会)を出版。タカクラ・テルの筆名をはじめて使 う。 この前後に佐藤正二と知り合う。	ルゲ事件関係者、宮 城与徳と会う」と訂 正。
項目数	80項目	167項目	

注記

- 1936年の項に「前年、のちのゾルゲ事件関係者、宮城与徳と会う」と記載された、高倉太郎氏作成の手書きの「タカクラ・テル年譜（略歴）」と、2013年2月14日作成の「タカクラ・テル（高倉輝）年譜」と記載事項を1891年から1936年までの45年間について比較して掲載した。
- 1891年から1936年までの記載項目数は、高倉太郎作成年譜は80項目、山野晴雄作成年譜は167項目である。
- 1986年までの全体の記載項目は、高倉太郎作成年譜258項目、山野晴雄作成年譜453項目である。